

梅鶯仏教壮年会報

第167号
2020年
10月13日

『梅鶯仏壯』本年度初開催の 本願寺念仏奉仕団に参加



新型コロナウイルス蔓延のため、本年度はこれまで見合わせた恒例の奉仕が、去る10月5日に半日の日程で開催され、梅鶯仏壯から9名が参加し、3名の方が帰敬式（おみそり）を受式されました。また夜の懇親会には真了新発意や京都同行の田村富美子女史も参加され楽しいひと時となりました。

この度、法輪寺住職が武蔵野大学（東京都）の理事長に就任しました。そのため東京中心の生活となり、本会報は当面不定期

題材法話

「仏が歩み行かれるところ
は、国も町も村も平和に治
まり、太陽も月も明るく輝
き、風もほどこく吹き、雨
もよい時に降り、災害も疫
病などもおこらず、国は豊
になり、民衆は平穩に暮ら
し、武器をとって争うこと
もなく思ひやり。人々は尊
び、つく礼儀を重んじ、互
に譲り合うの心である。』
に「ついでに、私教の世に
なる。〽〽〽〽〽〽〽〽〽〽〽〽
去った後には、仏の教えが
しだいに衰えて、人々は偽
りが多くなり、ふたび偽
ろいろな悪を犯して、五痛
と五焼の報いを受ける。時
を経るうちに、それがすま
激しくなるであらう。』
き後は災害、疫病もおき、
人々は武器で争い、偽り
は多くなる。益々激しくな
は、それが益々激しくな

れた世界のありさまを述べら
れ、たお言葉です。感染拡大の中
でも争いごとが絶えない今
の世の中を端的に言い表し
ては、何故、お釈迦様の教
えが行き届いていけば疫病
が起らないのでしょうか？

○ウィルスとは？

ウィルスとは、地球上に誕生
したの30億年ほど前と生
いたの人類の祖先であるホモサ
ピエンスが誕生したのが2サ
0万年。ウィルスは人間の祖先
ら、そのウィルスは人間の祖先
輩なので、ウィルスは人間の祖先
0.1マイクログラムはわずか
（0.001ミクロメートル）
ル）の大きさで、生き物の
あかしの大きな細胞を持つた
遺伝子のみの細胞を持つた生
物と非生物との境界線に存
在する。

ら、本来はウイルスと宿主は共生しながら存在するのが普通なのだ。そうです。ウイルスは現在分かつているだけでも地球上に32万種がいます。その中で、その32万種に生きてるの宿主と共生人間にも多くの細菌やウイルスが住み着いて、これらによって人間が成長しているところがあるということがある。分かつていることがよくある。

○なぜ疫病がおこる？

ウイルスの新型コロナと共存できないウイルスが疫病をもたらすのでしようか。それは、今の都合で、何からの都合で、主からほかの、住むと上手く



む。実はこれが大なり。災としての側面が大きい。いと考えるので

人間が人間の欲を満たすために森林を開発したため本来のウイルスの宿主の関係が成り立たなく、移り住むようになると考えられ、問題な

のは戦争です。戦争により人間が未開の地に染り込み、ウイルスの感染結果一般社会でも疫病が流行する。これも起

界的に大流行した。これは史的に日本国内は必ずしも戦が起き



れば大きな病気や災害にあうことはない。仰つています。生かされて生きています。縁起の道徳をわきまえて、みな開発や環境破壊、そしておこさなければ疫病

○阿弥陀様のほうろ

ことに、末法と呼ばれ、現代社会において、人は人間の欲望を完全に抑えることはできず、争いも簡単に止む

ただ大切なことは、だからその阿弥陀様の「すべの願われ」量寿仏の名（南無陀念仏）を聞けば、



す。そして親鸞聖人は「念仏のみぞまことにておはします」とその真実性を明らかにして下さいました。そのことを悦ばせて頂き、一人一人が、少しでも欲を抑えた生活の心掛け、争いごと

に努力することが大事なのではないでしょうか。世界をパニックに陥らせている新型コロナウイルスの「ウイルスと戦う」といつた表現から「ウイルスの存在を認める表現に変わってきました。人間よりもはるか昔から存在するウイルス、本来共生できるウ

イルスの関係は、人間の方で、イルスの思いが「ウイ